

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p><u>小中学校での読書活動の定着化と活性化による教育環境の改善</u></p> <p>対象校のうち訪問活動を終えた 15 校では、全ての学校で図書室を定期的に開放し、93%の教員が授業で図書を活用しており、86%の学校で読書をする生徒が増加していた。このことから、対象校において、読書活動の定着化と活性化が進みつつあるといえる。</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) 学校図書室担当者の面接</p> <p>「図書活用セミナー」の準備調整として、当会スタッフ2名と郡の教育指導官が下記の日程で、全対象校を訪問し、図書室担当者と面接。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2011 年 10 月 16～20 日 チャンパサック県の 16 校 ○ 2011 年 10 月 25～28 日 カムアン県の 6 校 ○ 2011 年 11 月 6～16 日 サバナケット県の 12 校 <p>図書室活動状況を把握し、セミナーの受講レベルの振り分けを行い、図書室を毎週定期的に開放している 9 校の「活発校」と、定期的に活動していない 25 校の「停滞校」の 2 タイプに分けた。</p> <p>(ロ) 図書活用セミナーの開催</p> <p>【図書活用セミナーの開催】</p> <p>上記面接を踏まえ、停滞校と活発校それぞれに図書活用セミナーを実施した。図書室の管理運営および、図書活用に関するスキルを習得するためのセミナーで、対象校 34 校から図書室担当教員各 2 名の計 67 名と、県と郡教育局の教育指導官計 41 名、合計 108 名を対象に実施した。当初の予定では、活発校、停滞校を各々 2 つのグループに分け、合計 4 回実施する予定だったが、停滞校の学校数が多かった為、停滞校対象のセミナーを 3 回実施し、活発校対象のセミナーを 1 回、以下の日程で実施した。</p> <p><セミナー開催日程・場所・参加人数></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 停滞校対象(各 5 日間) <ul style="list-style-type: none"> (1)2011 年 12 月 6～10 日 サバナケット県 26 名 (2)2012 年 1 月 10～14 日 チャンパサック県 29 名 (3)2012 年 1 月 16～20 日 チャンパサック県 25 名 ■ 活発校対象(各 4 日間) <ul style="list-style-type: none"> (1)2011 年 12 月 12～15 日 サバナケット県 28 名 <p>※セミナー内容については、添付 2-a、2-b 参照</p> <p>【セミナーで配布する教材の出版】</p> <p>中学校のラオス語のカリキュラムに採用されている民話や、科学に関する本など、授業に導入し易い図書を選定し、民話絵本「カンパーとナンガー」、翻訳本「楽しい動物の話」、短編集「デクノイラオ」の 3 タイトルの本を出版した。4 タイトルの出版を計画しているが、4 タイトル目の「海外民話作品集」は、諸事情によりイラストを描く画家を変更することになった為、計画より出版が遅れている。印刷した図書は、学校の授業で各自が本を手に取り利用できるように、教材として配布した。小学校は各 35 冊、中学校は各 50 冊ずつ配布した。</p> <p>(ハ) 学校訪問活動</p> <p>本活動は、事業開始後 7 ヶ月目以降に開始する計画だったが、5 月に学年末試験が始まり学校訪問が実施できなくなるため、4 月までに訪問活動を終了する必要があり、予定を早め 4 ヶ月目の 1 月の終わりから訪問活動を開始した。国立図書館スタッフ 1 名と当会スタッフ 2～4 名が対象校を 1 回ずつ訪問し、状況</p>

	<p>に応じた相談、指導を行い、図書室活動活性化の道筋をつけた。また、蔵書を補う図書セットを配付した。3月末までに、カムアン県の6校の対象校と、サバナケット県の対象校9校、合計15校を訪問した。</p> <p><学校における図書活用の成果・課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図書室担当者の面接の際には、図書を活用したアクティビティのやり方がわからないのでできない、という学校が多かったが、セミナー後の学校訪問では、セミナーで習得したアクティビティは実施されるようになっていた。 ○ 図書を活用したアクティビティの実践には偏りがあり、「楽しい音読の練習」を実践していた学校は無く、図書を学習科目に導入していた学校は少なかった。学習科目とは別枠で設置されている「活動の時間」に図書を活用したアクティビティを導入している学校が多かった。 ○ 図書の蔵書登録や貸出しのための図書の整備(貸出しカードの記入等)の理解度には差があり、図書登録、図書の整備が正しくされていた学校は1校のみであった。13校は概ね正しく図書登録、整備がされていた。 ○ 当初の訪問時と比較すると、図書室開放の方法が整備され(学年毎に図書室を利用する時間割制にするなど)、図書室利用者が増加した。 <p>当会策定の評価基準に照らし合わせ、図書室の活動状態を評価したところ、15校中3校が最良のAクラスで、12校がBクラスであった。※添付3-a、3-b参照</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>期待される成果と成果を測る指標</p> <p>1)図書室が定期的に開放され、図書サービスを児童生徒に提供している</p> <p>1)-1 対象校で図書室の開放時間が増加 カムアン県とサバナケット県の訪問活動を終えた15校のすべてが週3日以上定期的に図書室開放をしており、図書室の開放時間が増加していた。</p> <p>1)-2 複数の教員で図書管理をしている学校が75%以上 訪問活動を終えた15校すべての学校が、2名以上で図書管理をしており、事業開始前よりも人員配置、管理体制が整っていた。</p> <p>2)教員が授業で図書を活用するテクニックを習得し、授業で活用している</p> <p>2) 図書を活用した授業を実践している教員が80%以上 15校中14校の先生が、図書を「活動の時間」に活用していた。</p> <p>3)児童生徒が図書に親しむようになる</p> <p>3) 対象校で図書室で読書をする生徒や、図書を借りる生徒が増える 対象校15校中13校において、図書室で読書をする生徒と図書を借りる生徒の合計が増えた。事業開始時、1週間に図書室で読書をする生徒の合計は、15校合わせて2,043人だったが、学校訪問時の調査では5,109人に増加した。また図書を借りる生徒数の合計は、408人から1,164人に増加した。 ※添付3-a参照</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>4月下旬:サバナケット県の対象校3校の学校訪問活動</p> <p>6月初旬:カムアン県とサバナケット県の県と郡教育局の指導官対象に、評価会議(3日間)をヴィエンチャン都にて開催</p> <p>7月:図書活用の教材「海外民話作品集」を出版</p> <p>9月:「海外民話作品集」を対象校に配布</p> <p>なお、計画よりも若干早く事業が進捗しているため、2年目に計画していた活動を9月に実施することを検討中。</p>